

千葉労働局長による建設工事現場の安全パトロールを実施しました

～令和5年度 全国安全週間の一環として実施～

県内の労働災害が多発していることを受け、7月5日、報道陣公開のもと千葉労働局長による建設工事現場の安全パトロールを実施しました。

千葉労働局長は今回のパトロールを通じて、労働災害防止対策の更なる徹底を呼び掛けました。

また、7月・8月は令和5年度「STOP! 熱中症クールワークキャンペーン」の重点取組期間であることから、熱中症予防対策の取組を喚起しました。

パトロール工事現場

施工者：清水建設株式会社 東京土木支店 千葉土木営業所

工事名称：東京外環自動車道京葉ジャンクションGランプ工事

所在地：市川市田尻

労働局出席者

岩野剛 千葉労働局長、吉田明生 船橋労働基準監督署長ほか

【パトロール概要】

パトロール冒頭の挨拶において、千葉労働局長は「県内の建設業の労働災害は長期的には減少傾向となっておりますが、今年は死亡災害が昨年同期を倍増する状況となっております。極めて厳しい状況にあります。加えて、今年も猛暑が予想されており、熱中症予防対策にしっかりと取組んでいただきたい。パトロールを機に、安全は企業にとって重視すべきことをご認識いただき、労働災害防止活動への積極的な取組をお願いしたい。」などと話しました。



施工状況を説明する作業所長(左)

作業所長から工事概要について説明を受けた後に現場巡視を始めました。

現場巡視では、熱中症対策・重機災害対策が講じられているか、高所作業が安全に行われているか、転倒予防の対策が講じられているかなど、災害防止対策が適切に行われているか、直接確認しました。

また、現場巡視後、VR技術を活用した作業のシミュレーションを体験し、的確な安全作業の管理に役立てられている内容を確認しました。

パトロールの総括として船橋労働基準監督署長より講評を行い、遠めに見ても安全帯の使用状況がわかる目立つ色のフックの使用や、熱中症ウォッチの活用による熱中症予防対策などが図られているなどいずれも良好であったと総括し、パトロールは終了となりました。

最後に、千葉労働局長より、作業エリアに日影が少ない屋外作業であることなどを踏まえ、熱中症予防の重点取組期間における熱中症予防対策の徹底について要請を行いました。



VR体験をする千葉労働局長